

TTC 提案山行実施記録表

2014.7.9 関 喜義 1

山行名	志賀高原（焼額山 2,006m・岩菅山 2,296m・寺子屋峰 2,125m）		長野県							
実施日	2014年7月5日（土）～7日（月）2泊3日		公共交通機関利用							
参加人員等	レベル：①☆ ②★★☆ ③★★☆		参加者：11名（男2名／女9名）							
パーティスタッフ	CL: SL: 会計: 救護: 写真:		スタッフ名削除							
参加メンバー	A班:(班長)、 B班:(班長)、		参加者氏名削除							
費用 一人 37,300円	集金：373,000円（@37,300×10人）、支出：371,560円、カンパ金：1,440円 [支出内訳] 交通費：都内～長野（指定席）78,760円、長野～都内（自由席）76,800円 長野駅～プリンスホテル西館前 19,000円、熊の湯ホテル～長野駅 20,000円 宿泊代：152,000円（@7,600×10人×2泊）・弁当代：12,000円（@600×20食） 入浴料：10,000円（@1,000×10人）・通信費&資料代：3,000円 *ひとりとは途中駅から合流のため、宿泊代等均等割であるが別会計にした									
所要時間		7月5日(土)			7月6日(日)			7月7日(月)前日計画変更		
		歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
	参考書	2:00	-	-	5:05	-	-	3:35	-	-
	計画	3:20	0:50	4:10	5:20	2:20	7:40	4:00	1:30	5:30
	実行	2:50	0:45	3:35	6:15	2:20	8:35	4:10	1:55	6:05
実行コースタイム記録										
◆7/5（土）										
新宿（集合）====東京====（あさま507号）====長野====（長野電鉄バス）====蓮池==== 7:00 7:15 7:28 7:52 9:45 10:10 11:20 11:35 プリンスホテル西館前・・・・焼額山（稚児池）・・・スポーツハイム奥志賀（宿泊） 11:52 12:05 14:00 14:15 15:40										
◆7/6（日）										
スポーツハイム奥志賀====岩菅山登山道入口・・・グリーンタフ・・・ノッキリ・・・岩菅山・・・ 7:30 7:40 7:50 8:35 8:45 10:30 10:40 11:20 12:15 ノッキリ・・・寺子屋峰分岐・・・高山植物園・・・高天ヶ原====スポーツハイム奥志賀（宿泊） 12:45 12:55 14:40 14:50 15:40 15:55 16:25 16:35										
◆7/7（月）*雨のため、尾根歩きから林道歩きに計画変更										
スポーツハイム奥志賀====大沼池登山道入口・・・大沼池湖畔・・・レストハウスWC・・・ 7:30 7:45 7:55 9:10 9:20 9:45 10:15 四十八池WC・・・渋池・・・(前山湿原)・・・熊の湯ホテル====（長野電鉄バス）====蓮池==== 11:45 12:30 13:05 13:20 13:30 14:00 16:20 16:38 16:40 ====長野========東京========新宿（解散） 17:40 18:11 19:56 20:08 20:23										

コースの概要、特記事項、反省事項等

地下鉄有楽町線の“銀座1丁目”6番出口を出てすぐ右手のビル8階に小さなオフィスがある。連泊する「スポーツハイム奥志賀」の宿泊の受付窓口だ。冬季スキー専用施設のためこの時期はオフである。そこを何とか開けてもらえないかの打合せから今回の山行計画が始まった。深田久弥が日本百名山構想を練って、山岳雑誌「山小屋」に毎月2座を掲載し始めたのが昭和15年3月号、翌4月号に岩菅山は3番目に紹介したが、その連載は10ヶ月20座で止まった。戦後の日本百名山再編成において、深田はわが子を手放す思いで岩菅山を割愛したという。その山を今回筆頭に計画した。

◆7月5日(土) くもり一時小雨

焼額山の登山口となる“プリンスホテル西館前”バス停に着き、予定通り待機していた宿の車に余計な荷物を預けた。少しでも軽いのが助かる。スキー場の施設だらけなので、夏場はまるで酒宴のあとのように静かだ。登り始めて間もなく、前方の背丈以上の笹の中からガサガサと大きな音が聞こえてきた。動物がいる。姿は見えないが至近距離であることには間違いない。声を出しながらしばらく立ち止まり、人間がそばに居ることを知らせた。5分ほどでそれは去った。そこから風通しの良いゲレンデの草原に出ると、なんと出来たての黄色い(竹の子が原料)大きな糞の塊があった。焼額山頂上(稚児池)を散策後、広々としたゲレンデの草原を下って間もなく、今度は30mほど先に黒い艶のある一頭の熊(体長1.5mぐらい)が現われた。人間の気配を感じ取ってか、すぐに森の中へ消えた。さらに、丸々としたタヌキ2匹も出てきた。まさに自然のふところだ。

喜びの不意打ちを食らったのが稚児池である。それは言葉よりも写真でわかる。その美しさに恍惚としたのはわたしだけではないはずだ。本日一番の収穫を脳裏に刻み、予定通りに下山した。スポーツハイム奥志賀での夕飯は、フランス料理のフルコースを感じさせる。その手並みに感謝しつつワイン片手にいただいた。美味しかった。この施設は由緒ある“杉山スキースクール”の拠点でもある。

◆7月6日(日) くもり

朝食も上品極まりない。暖かいコーヒーと煙草がうまい。岩菅山の登山口まで送ってもらう。きのうは行き交う登山者はいなかったが、きょうは登山口にバス1台とマイカー数台が揃っていた。しばらく登ると長くきれいな水路、鮮やかなグリーンタフが現われた。ノッキリからの花観賞も楽しんだあと岩菅山の頂上に立った。展望はきかないが近くの眺望に飽きることはなかった。寺子屋峰までの霧が吹き過ぎる合間に見る岩菅山は、なかなかの男前で、急峻な厳しさと背丈の高さを誇っていた。東館山高山植物園は、高山植物がぎゅっと詰まっっていて勉強になった。降り口となる高天が原のリフトに乗ろうとしたが、係員がいなかったので20分ほど余計に歩き、本日の山行を終えた。迎えの車2台に分乗し、宿につくやいなや風呂を浴びて大汗を流した。明日の天気は思わしくない。わたしの決心は鈍ったが、夕食前のミーティングで計画変更をメンバーに伝えた。今宵もスプーン、フォーク、ナイフを手に恵まれた物を口に入れた。

◆3日目 小雨・くもり・霧雨

雨なので、予定していた稜線歩きはやめて大沼池登山口からの林道を歩くことにした。出発前にきょうの終点となる熊の湯ホテルまで届けてもらう荷物を置き、登山口まで送ってもらった。小雨の中、気持ちの良い林道歩きをして最初の池に着いた。大沼池はブルーとエメラルドの混じった何とも言えない神秘的な池だ。わたしにとってたまらない魅力で、絶品の一語に尽きる。池の淵にあるレイクハウスで眺めもよく30分ほど休んだ。退屈を知らない世界だ。よっこらしよっと腰をあげて四十八池まで登った。その高層湿原は大沼池と打って変わって、大小60余りの池が一面にある。シラビソ、コメツガに囲まれた静かな景観を呈し、志賀山がバックで風景に申し分ない。次の渋池も飽きない。淵にあるワタスゲが白く、池のエメラルドグリーンと実によく似合う。最後に観る前山湿原は湿原と言うよりも一面白い花畑だ。正確には季節限定による種を付けた白い綿毛のワタスゲだ。3日間の仕上げは歴史ある風呂で身体をいたわり、喉を潤おすことに追われた。江戸時代に佐久間象山がこの温泉を発見し、岩菅山にも登ったという。風呂上り後も歓談は尽きなかったが、急用で休んだうさんの残念が心にあった。定刻のバスに乗り、人臭い世界に下りたのは日暮れる1時間ほど前だった。

【反省点・特記事項】

1. 山行中、蚊に刺されてしまった。防虫対策の事前注意喚起が不十分だった。
2. 山行中、「非常時の懸垂下降」、「ツェルトによる救助搬送」を体験してもらった。
3. 机上の予習復習では「山座同定の準備の仕方」、「行程の同定表作成」を行った。
4. 高山植物の記録は写真係がバッチリ撮っているので、本文では省略した。

以上